

科学史技術史通信

特定非営利活動法人(申請中)
科学史技術史研究所
 田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫
 No.3
 2010.2.20
 東京都中野区野方 1-29-1 B-101



スイスの現存、塔時計では最も古い時計の一つで、チューリヒ・バイヤー時計博物館所蔵。教会用のもので 1522 年スイスの Turbenthal の教会に設置された。製作者は、1516 年チューリヒ市民権を得た Hans Lutherer。彼は、さらに 1534 年 チューリヒの聖ペーター教会の 2 番目の時計を製作しているが、これは残っていない。この教会の最初の時計として 1366 年頃製作されたものや、それより若干早くつくられた Basler 大聖堂のものが、スイスではもっとも古い時計である。本写真の時計は、1902 年まで稼働していた。打鐘部分や時刻指示部を欠いているが、古い教会塔時計のメカニズムをよく示している。錘で駆動し、巻取軸で制動し、またおもりによる平衡で制御機能を持たしている。

チューリヒの時計博物館

スイスには多くの時計博物館があり、時計技術史上、文化史上重要な史料の宝庫となっている。チューリヒの **Beyer 時計博物館**(上の写真)もその一つで、チューリヒの最古の時計店(1760 年創設)内に、店の創設者 Theodor Beyer の何百もの蒐集をもとに 40 年以上前に設置された著名な時計博物館である。コレクションも新しく増やされ、世界的レベルで見ても重要な展示となっている。例えば、機械時計だけでなく、日時計や 16、17 世紀の科学的計測器具、鉄製時計やスイス木製歯車、初期バロックやルイ 14 世様式の振り子時計、ノイエンブルク振り子や南独ルネサンス時計と天文儀、Arnold や Earnshaw、Berthoud、Tourbillon らの名作が、ここにある。

この他、スイスには、ジュノー時計博物館、スイスウォッチ・ミュージアム、パテック・フィリップミュージアム、そして時計産業のメッカで世界遺産のラ・ショード・フォンの

世界最大級の時計博物館等多くの時計博物館があることは言うまでもない。<http://www.mih.ch/>

No.2 訂正：(増刷分は修正済み)

- 1 頁左欄図キャプション 3 行目 「称されててているが」→「称されているが」
- 1 頁右欄上から 6 行目「鉱山アカデミーを、日」→「鉱山アカデミーを、日」
- 1 頁目右欄本文下から 5 行目「またまた」→「またま」

2010 年に予定されている国際会議 (その 1)

20th General Meeting of IMA

2010 年 8 月 21-27 Budapest, Hungary
 ー第 20 回国際鉱物学学会ー
 当分野で最古の国際組織 (第 1 回 1959)

Circular for 2009
 Come and celebrate the 50 years of IMA and rediscover a traditional region of mineral sciences:

20th General Meeting of IMA

IMA2010
 21-27 August, 2010
 Budapest, Hungary



Bonds and Bridges

Mineral Sciences and their applications:

Everything on natural and analogous solid matter and its interactions

会場：Eotvos L 大学
 テーマ：つなぎと橋わたしー
 ー鉱物学とその応用ー
 基礎鉱物学は地球惑星関係学、物質と応用学、環境科学、生命科学などすべてに関わっている、それらの中での多学問の交わりの会議である。
 概要提出締切：2010. 3. 6
 普通参加申込：2010. 4. 30

<http://www.ima2010.hu>

予約申込等：
ima2010tech@ima2010.org

組織：オーストリア鉱物学会、ハンガリー地質学会、地質化学部門、ルーマニア地質学会、スロバキヤ地質学会、地質化学部門、チェコ地質学会、クロアチア地質学会、ポーランド地質学会等、

2010 年に予定されている国際会議 (その 2)

第 8 回東アジア科学史会議

ー科学と文化の遺産ー

2011 年 8 月 1-5 日 中国・黄山



The XIIIth International Conference on the History of Science in East Asia: Science and Cultural Heritage

August 1-5, 2011
 Huangshan, China
 中国・黄山



International Society for the History of East Asian Science, Technology and Medicine
 Department of the History of Science and Scientific Archaeology
 University of Science and Technology of China

2 頁以降の内容は下記のようになっています。所員に配布されている『科学史技術史通信』でお読み下さい

第 8 回東アジア科学史会議の会場（黄山）紹介

- 2010 年に予定されている国際会議（その 3）
- 2010 年に予定されている国際会議（その 4）
- 2010 年に予定されている国際会議（その 5）
- 2010 年に予定されている国際会議（その 6）
- 2010 年に予定されている国際会議（その 7）・・・17 大会

街角で見かけた科学史・技術史の一断面：

鉄道レール・・・・・・田中克範

<参考情報>科学史技術史関係新刊紹介

欧文科学史技術史の新刊タイトル紹介：約 100 点
本研究所蔵書から・・・宇野哲人・乙竹岩造外『藩学史談』

文松堂書店 509 頁 昭和 18 年

近刊資料紹介・・・第 23 回国際科学史会議報告集：

nqg41451@nifty.com へ。印刷製本実費 500 円＋郵送料(80 円)

科学史国際会議（ブタペスト）で出店の科学史上の著名な
実験器具模型

